

んと云々」とある。この場合の奥郡は石川・河北を指すのであるが、之に對して江沼・能美を口郡と言つたものは見えない。この奥郡を北二郡ともいひ、江沼・能美を南二郡といふこともあつた。

オクゴホリ 奥郡 能登の國主・珠洲二郡を併せて奥郡といふことがある。羽咋・鹿島を口郡といふに對するものである。

オクサンボウザン 奥三方山 石川郡の東境に近く存在する。高さ一六〇三米。山體石英粗面岩。登路奥池から頂上まで四軒。

オクシンホ 奥新保 河北郡二俣の内の小字。

オクソウシヤバン 奥妻者番 奥御妻者番は寶永二年五月廿五月初めて前田左京誠明・西尾準人長宗・小幡外記直陳・成瀬左京生直四名に命ぜられたに起るが、同六年西尾死し、正徳六年成瀬も亦死し、享保元年七月二日前田は若年寄となり、小幡は職を免ぜられて當職は廢せられた。

オクダカゲトミ 奥田景富 通稱才次郎・惣左衛門・五兵衛。享保十八年養父忠左衛門重好の遺知百五十石を継ぎ、安永四年御異風小頭に任じ、七年異風料三十石を受け、天明五年祿五十石を加へ、八年十一月十八日七十八歳で歿した。

オクダシヨウエモン 奥田庄右衛門 越前府中に於いて前田利家に仕へ、六百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

オクダソウワン 奥田宗安 諱は久敬。醫師で法橋に叙せられ、寶曆十一年九月召出され、二十人扶持を領し、十三年六月十七日六十七歳を以て歿した。その子に宗安通賢があ

り、七人扶持を受けたが、明和三年歿して跡目斷絶した。

オクダミツムネ 奥田光宗 通稱帶刀左衛門。初め山田氏の臣で、七尾城陥落の後遊佐續光に屬したが、天正九年六月二十七日長連龍の爲に、遊佐一族と共に七尾池田館に於いて刎首せられた。

オクツキヨコメ 奥附横目 略して奥附ともいふ。藩侯の側近に附屬する監察の吏で、身分は足輕である。

オクトリツギ 奥取次 奥御取次は御近習頭の内から勤め、奥小將番頭は必ず當役を兼務した。或は頭分ならざる者の勤めたこともある。その初は不明であるが、延寶年間に多賀逸内が御取次役を勤めたとある。又元祿三年八月には生駒左近・葛巻新藏・同權佐無組附を命ぜられ、御取次元の如しとある。是は頭分で勤めたのである。又同六年六月十一日戸田百助・成瀬左京が御前取次役を命ぜられ、葛巻權佐の代りとなつたとあるのは、即ち平士役であつた。十五年黒坂左兵衛・井上三太夫奥御取次となるに至つて奥御取次の稱が見える。前田吉徳の時に至り、全く後代の制となり、御近習頭の内より任ぜられたが、その後一時罷められたこともある。

オクナンドブギヨウ 奥納戸奉行 奥御納戸奉行は藩侯の衣服等を管掌する職である。明暦二年板津兵助が命ぜられ、萬治年中に脇田小平、其の後中村新之丞・近藤彦三郎・井上三太夫・矢野所左衛門等の名が見える。延寶五年三月八日和田次郎兵衛・津田四郎兵衛が命ぜられ、爾後連綿する。

オクニゾメ 御園染 一カガゾメ 加賀染。

オクネンジ 憶念寺 河北郡興津に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年七月寺號の公稱を許された。

オクノウチツグ 奥野氏次 通稱主馬。父紀伊氏清は元和四年に歿したから、氏次其の後を繼いで五千石を賜はり、その室は前田利政の息女であつた。氏次の長男治部左衛門は配分知五百石を賜はつたが、後富田越後重次の嗣子となり、越後重持と稱して三千石を受け、二男吉藏は三百石を配分せられたが、是も富田越後の猶子となつてその氏を冒し、千石を領した。是を以て三男右兵衛が家嫡となり、三千二百石の祿を襲いだ。

オクノウチノブ 奥野氏展 通稱市郎左衛門・主水・外記。兵庫氏之の養子。享保十四年亡父の願方宜しからざるを以て、祿千石を減じ、二千二百石(内四百石與力知)を襲ぎ、寛保二年御算用場奉行となり、延享四年指除き、寶曆九年七十歳を以て歿。

オクノサヌキ 奥野讃岐 初名彌一郎。奥野與兵衛の子である。初め浦生氏郷に仕へたが、前田利家の時小々將に列し、天正十二年末森城の援軍に比類なき働をして、翌年八百俵を賞賜され、遂に五千五百三十石を賜はつた。慶長十二年歿し、紀伊氏清その後を受けた。

オクノボウ 奥之坊 鹿島郡春木の内の小字。

オクノヤ 奥谷 江沼郡西庄に屬する部落。

オクノヤガハ 奥谷川 江沼郡奥谷領永尾谷の堤から出で、橋・右を経て大聖寺川に合流する。

オクノヤジヨウ 奥屋城 江沼郡奥谷に在つた。越前賢三州志古據考に、弘治元年朝倉

宗滴の加賀に侵入した時、その將堀江中務永景忠がこの堡を燬いたとある。

オクハラ 奥原 鹿島郡奥原保に屬する部落。

オクハラサイトウウチ 奥原齋藤氏 建武二年七月十四日沙彌成光の判書に嫡男奥原齋藤四郎茂成・次男奥原齋藤七郎眞將が見える。齋藤氏にして鹿島郡奥原村に居住したものであらう。

オクハラダイコン 奥原大根 鹿島郡奥原・川尻・新屋に産する大根を奥原大根といひ、附近ではその美味を賞した。

オクハラホ 奥原保 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録に、「奥原保、壹町三段五、承久元年檢立定」とある。後世亦奥原保がある。

オクハラホ 奥原保 鹿島郡に屬し、藩政時代では、舟尾・奥原・和倉・新保・祖濱・石崎・松百・赤浦・直津の九ヶ村を含んで居た。

オクマサタカ 奥政務 一向一揆の首領で通稱を近江守というた。天正四年八月廿一日附下間刑部卿法眼苑所の訴狀連署中に、その名が見える。

オクムアラキノリ 奥村明敬 加賀藩の老臣奥村氏支家第四代。應輝の嫡男。天和元年十一月廿二日出生。通稱茂松・兵部。初諱敬親。寶永二年六月十三日父の遺知一萬七千四百五十石(内三千石與力知)を継ぎ、人持組頭となり、三年三月十五日廿六歳で歿した。法號憲章軒慈觀居士、野田山に葬られた。明敬一名は贊、字は存養、號を誠齋・積善・憲章といひ、力學解ることなかつた。

オクムアラツテル 奥村實輝 加賀藩の老